

午後2時7分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番富田栄一議員の質問を許可します。12番富田栄一議員。

（12番富田栄一君登壇）

○12番（富田栄一君） 本日の台風は大きな被害もなく、安堵しているところです。徹夜で対応していただいた職員の皆さん、本当にお疲れでございました。でも、東北・北海道の台風災害、そして、九州熊本・大分でまだ続いている地震、被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

私は災害を聞くたびに、議員の限界を感じています。平成25年9月議会より3年間、新設小学校敷地の狭さと、災害に対しての安全安心を一般質問してきました。平成24年の災害を経験した事実により、安全対策を確認してきました。議場にいる皆様の貴重な時間、3年の長い時間を使って、水が集まる場所は土砂災害で危ない、本当に大丈夫かと、朝倉市の最高議決機関であります朝倉市議会議場でのその答えは、前回28年6月議会において、昨年9月答弁のとおり、ごみが詰まっていたので排水路の点検を行うことで大丈夫と変わっていませんでした。

また、別件にては、子どもたちの安全安心について確保されていないことが、先日9月2日に行われた新設小学校準備委員会で話されました。学校建設中に運動場が資材置き場になるために、代替施設、杷木球場の施設改善について約束が守られていない、指摘を受けています。市長が公文書にて施設の改善を約束しているのに、「予算がないからできませんでした」です。では、準備委員会がもらった公文書は何ですかということでした。今、学校建設も始まりました。災害対策、水路の改修を含めて、子どもたちの安全安心のバトンは、完全に教育委員会、そして、市長へと渡っています。どうか子どもたちの安全安心をよろしく願いいたします。

ところで、こんな話を聞いたことがありませんか。下町の女将さんが公園建設の陳情に市役所を訪れます。しかし、公園建設は簡単には進みません。市役所窓口での無責任な対応。その後、〇〇課へ行ってくださいと縦割り組織でのたらい回しなどなど。

そんな中、大過なく過ごしていた市民課長さんが、がんによる死に直面します。初めて過去の自分の無意味な生き方に気がつき、小さな公園建設ために動きます。それでも、市役所内部の不透明な物事の決め方、奔走する課長に対しての批判的な市役所職員の態度など、さまざまな問題がありました。頭の硬い役所の幹部らを相手に粘り強く働きかけ、いろんな方からの脅迫にも屈せず、ついに住民の要望だった公園が完成します。そして、雪の降る夜、完成した公園のブランコに揺られながら息を引き取ったのです。これは、公務員社会の抱えているさまざまな問題が描き出されている物語とされています。皆さんも見たり聞いたりしたことはあるのではないのでしょうか。黒澤明監督の映画「生きる」です。なんと1952年、昭和27年の上映です。もちろん私は生まれる前の時代です。しかし、新鮮

に思えるのはなぜでしょうか。64年前も現在も変わっていないものがあると思われるのではないのでしょうか。

(12番富田栄一君降壇)

○議長(浅尾静二君) 12番富田栄一議員。

○12番(富田栄一君) 先ほどの物語について、元ニセコ町長の逢坂氏は、かつて次のように話されています。「この映画を見ると、日本の公務員社会が抱えている問題の根の深さを痛感しています。それと同時に、他人の幸福のために力を振り絞って頑張ること、献身や犠牲が公務員としての生きる道なのだと、改めて強く感じるのです」。議場の皆さん、職員の皆さんはいかが思われるのでしょうか。

では、質問に移ります。

財政、どう歳入をふやすかについて考えていきます。

お手元に平成28年1月19日に議会へ提出された財政の見通し試算表②をもとに、一般家庭の1カ月の家計に直したらとしてつくった資料をお配りしています。表から明らかなように、単年度収支は平成32年から赤字へシフトしていきます。が、しかし、その額は、月収28万円の家計で3,000円弱の赤字なのです。例えば、飲み会を少し制限すればいいかなと思うぐらいです。ならば、なぜ議会に赤字の財政見通しを公表したのか、何か深い意味があるように思います。間違いなく全ての政策の扇のかなめは、財政にあります。これを考えながら質問を進めます。

1、日本一のふる里政策、目標の一つは、住みたい町を目指すことにあると思います。客観的に誰が見ても日本一と思われる各部が取り組んでいらっしゃる具体的な事例と、日本一になれない今一步の課題は何でしょうか。

○議長(浅尾静二君) 市長。

○市長(森田俊介君) 日本一のふるさとの話が出ましたので、私が申し上げている日本一というものがどういうものか。これは、平成22年か3年ぐらいの一般質問でそのことを尋ねられましたので、お答えしたものがございます。それはどういうことかと申しますと、もともと日本一のふるさとというのは、物とか数値が日本一という考え方ではございません。朝倉市に住んでいる方が、自分たちの住んでいるところが日本一だと思える地域にしていきたい、あるいは、朝倉市の出身の方が、自分たちの出身地である朝倉市というふるさを日本一だと思えるような地域にしていきたいという意味でありますという答弁をしております。今もその考えには変わりございませんので、もしかすると、富田議員の考えである日本一というものと違うかもしれませんので、そこらあたりは十分御理解の上、あとは各部長に答弁させますのでよろしく願いいたします。

○議長(浅尾静二君) 12番富田栄一議員。

○12番(富田栄一君) 客観的に日本一という言葉と、今、市長が言われたことは、大きく違うと思います。客観的にということがある部だけよろしく願います。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、日本一のふるさと朝倉づくりの事業と取り組みといたしまして、6項目の分野があるということを御説明したいと思います。1番目、災害に強いまちづくり、2、安心して暮らせるまちづくり、3、環境を大切にすまちづくり、4、産業の盛んなまちづくり、5、帰ってきて住みよいまちづくり、6、市民サービスの向上と健全財政のまちづくりといった内容で、経常的な事業もありますし、新規事業もある。それらを盛り込んだ内容で、現在進めているところでございます。

私ども総務部の分野でございますけれども、これら各分野をともに向上させるまちづくりを進めたいと。多くの市民が朝倉市に対する愛着とほこりを高めていただきたいと。そういう状況をつくり出していきたいというふうに思っております。

総務部といたしましては、まず、まちづくりをするための土台を確実に支えることが大切だというふうに思っております。職員が安全安心に業務に当たるとか、行政運営に必要な財産管理とか法律、条例の業務を堅実にを行うと。それから、コンピューターのサイバー攻撃に对应して情報セキュリティに取り組む。まちづくりの財源を確保、維持するといったことに取り組んでおるところでございます。

また、総合的な計画、評価、戦略をつくることによりまして、重点的な事業推進室も、総合力を高めるために、バランスのとれた行政運営を行うように進めております。

事業分野といたしましては、総合戦略の進捗管理、コミュニティを中心とした活力ある地域づくり、庁舎、十文字公園、防災、公共交通、ふるさと納税、男女共同参画などの事業を展開しておりますけれども、これら総務部門の事業は、いずれも欠くことができないと。これらを全て着実に前進させることが、日本一のふるさとづくりにつながるものと考えております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 今の総務部長の答弁の中に全てあるのかと思っておりますけれども、日本一のというのを客観的ではなくて、自分の思いとしてしっかりと頑張っていくんだという、そういうことだろうと思っております。

私が言いたかったのは何かというと、本当に職員の方よく言われます。市長が右と言ったら右に行かにかいかんち。市長が日本一なら本当に日本一を目指さないかんと思っております。総務部長言われるように、相対的な日本一というのは非常に難しい。田舎であればあるほど、とがったところの一点がぜひなからんと、日本一というのは難しいと私は考えています。そういうものが各部長、あらっしゃると思うんですが、時間の関係で、今、総務部長が結構長く言われてたので、そのままで終わらしていただきたいと思っております。申しわけございません。後で各部回していただいて、原稿はいただきたいと思っております。

日本一のふるさと、目標は何かと私はここで皆様に質問したのは、人口がふえることは財政にはプラスになるんだよということ、しっかりと政策の中に考えていただいている

ものだろうということの確認をしたかったのです。

さきの元ニセコ町長のお話ですけれども、こんなことを言われています。「事業を行う各課の皆さんは、歳入にはほとんど関心がない。財源については、財政の仕事だからとおっしゃる。補助事業であれば、自分の担当する補助金については強い関心があります。しかし、残りの一般財源をどのように賄っているのかについては、関心が高くないのです。補助金のない単独事業になればなおさらで、歳出は随分と心配するのですが、歳入については余り考えていただけない。歳入あつての事業なので、事業課では十分に把握していなければならないはずなのですが、実態は大きく違います」ということです。

では、朝倉市について、事業がめじろ押しですが、どうなのでしょう。財政見通しを考えてということで、(1)。2番に移らしていただいでですね。庁舎建設、総合的体育施設建設と、大型事業は進んでいます。また、学校がなくなった後の地域活性化としての学校跡地活用事業が起きましよう。建てるだけでなく、地域経済への効果、また、維持費、管理費の発生など、それぞれに財政との連動はどうなっていくのでしょうか。お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 庁舎・十文字公園整備室長。

○庁舎・十文字公園整備室長（井上 浩君） まず、庁舎についてでございますが、庁舎の位置につきましては、朝倉市のまちづくりを……。庁舎建設がどのように財政的な政策と結びついてるかということでお答えしたいと思います。庁舎の位置を決めるときに、朝倉市のまちづくりを左右する重要な事項であるということで検討がされてきております。まちづくりの観点、それから、アクセスの利便性、安全性、実現性、経済性の視点から協議検討を重ねてきたところでございます。ピーポート甘木などの既存施設を活用することで、新庁舎の建設面積を縮減できる、周辺地域や町の活性化に寄与することが期待されること、多方面からの道路網、インターチェンジや駅までの距離など、アクセス面において住民の利便性が高いこと、合併特例債の適用期限である平成32年度までの庁舎建設の実現性が高いことなど、そのような視点から検討を重ね、現在のピーポートの位置に庁舎建設が検討されてきたということでございます。その中に、まちづくりの視点であるとか、そういうものを含めて検討してきたところでございます。

また、総合的体育施設の建設については、農業高校跡地の活用を、食と農と健康が集うふるさとの公園をコンセプトとして、現在、スポーツと都市公園整備として整備を進め、総合的体育施設を含む公園整備としてのスポーツエリア、農と憩いのエリア、農林業団体誘導エリアを計画しているところでございます。

財政的な効果としては、総合的体育施設においては、大会の開催による交流人口の増加……。 (発言する者あり) 済いません。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 議員の質問の趣旨としましては、いろんな大型事業をしていく

上で、財政と連動して大丈夫かということが主だろうと思っております。大型事業、庁舎、それから、体育施設、いろいろしておりますが、1月の財政の見通しでお示ししましたように、十分この事業をしたとしても、10年間の財政運営はやっていけるという、そういう長期的な視点に立っておりますので、財政的には大丈夫でございます。

ただ、杷木小学校のあとの4校の対応については、まだ財政計画の中には盛り込んでおりません。このあたりは今後どうするかというのが見極めができておりませんので、事業計画できておりませんから、その分は、まだ今のところは入っていない状況でございますが、それ以外につきましては、運営できるという判断をして、計画を進める状況でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） いろんな財政見通しの中に組み込んでらっしゃることは話を聞いておりますが、ここでもう一度、数字の確認をさしていただければと思っております。維持費、もしくは、概算で結構ですので、管理費等、庁舎、体育館、それから、学校跡地についても、各コミュニティと準備委員会等をお願いしているかと思っておりますが、それについても、予算が無制限ではないと思いますので、ある程度の概算があるのかなと勝手に私は想像してはるんですけども、そこあたりのところの確認をお願いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 質問の趣旨としましては、済いません、ちょっと理解できないところがありまして、お尋ねしますが、統合された後の校舎の維持管理ということの予算がどうなってるかということの御質問ですかね。ちょっと済いません。わかりませんでした。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 庁舎の件と体育館の件は、もうあわせてお願いしたいんですが、跡地計画についても、それぞれのコミュニティにお願いしているということではあります。市としての概算を持っておかないと、どういうことをお願いしているというのはわからない。もしくは、企業に売却するという話があるのかもしれませんが、それについても、絶対コミュニティでは無理ですし、何をどう考えているかという市のものがない限り、無限大にこういうことをしてほしいとか言っても難しいと思いますので、そこあたりのところの大枠の財政的な扇のかなめと言いましょうか、そういうものがあると思うんですが、そうでないと、幾らでも扇は開いてしまいますので、どういうふうに考えていらっしゃるかということです。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 4つの小学校の跡地の今後の利用でございますが、今検討をしておるのは、地元と市の執行部とが一緒になって、教育委員会が中心になっておりますが、それ以外に管財とかいろんな関係部署が入って、私どもでもプロジェクトチームをつくって対応しております。そして、せっかくの土地と建物がございまして、そのあたりを地

域として使えるかどうか、まず一点でございます。地域には、4つ地域がございまして、特性がいろいろあると思います。この土地を、貴重な土地、建物でございまして、どうしたら今後の各地域づくりになるかということ、まず視点をお願いして協議をしているところでございますが、今、売却という話も言われましたが、それは一つの選択肢でございまして、地域が地域で使う必要があれば、それを優先してやりますが、地域も使う必要がないと、そして、地域の問題が、企業誘致が必要であるとかいうことであって、そういうことになれば、例えば、校舎の一部を使って企業を誘致することを市のほうでも進めていきたいと思います、場合によっては、人をふやすことが、その地域では一番の目標ですよということで、分譲地とかすることがいいということであれば、そういうことにもなりますし、今、白紙の状態でいろんな状況を検討しているという状況でございます。ですので、予算枠がどれだけかというのは、その施設によって変わってまいりますので、なかなか総額が幾らでやってくださいとか、そういう考え方は今は持っておりません。地域で維持管理する場合がありますし、場合によっては、市のほうが、売却の場合は地域がするのではなくて、市のほうが、市の財産でございまして、地域の協議のもと同意がとられましたら、住宅で売るとか、企業に貸し付けするとか、企業に売るとか、そういうことも選択肢の中の一つとしてあるということでございます。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今、廃校の活用ということで、例えば、（発言する者あり）さきにですね。佐田小、黒川小の跡地活用の現状について、したいと思います。佐田小跡地は、たかき清流館として活用されておりますけれども、指定管理で運営しておることですが、それら指定管理を含めて、約190万円を支出しております。それから、黒川小跡地は、共星の里、これは山里の美術館ということですが、共星の里として活用されておりますが、これにつきましては、管理委託料ほか、約80万円を支出しておるというものでございます。今、跡地の活用の現状は、そういう2つの例がございまして。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 申しわけないんですが、もう一遍、数字的なものの確認をしておきたいんですが、庁舎のこれの維持管理と経費についてをどう見ているのか、それから、総合的体育施設についての維持管理費と経費をどう見ているのかというのの数字を教えてくださいたいというのが一つの趣旨でした。

2番目に、その全く書いてないこれはどういう考えですかと。学校跡地について、今、お話、総務部長からいただいた分については、どういうふうに考えていますかというのが私の質問の趣旨なんです。最初の2つについてを、明確な数字をお願いしたいと。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 庁舎の新庁舎の維持管理につきましては、現行の庁舎の維持管理費と同額で、財政の見通しは計上しているところでございます。これは、現在と同じ規模

のでできるとすれば、現在よりも電気とか、いろんな光熱費が省エネになっておりますので、それ以下でできるっちゃんないだろうかという推計のもとで、同額で試算しております。

それから、新しい体育施設につきましては、1年間に年間8,000万円程度の維持管理がかかるという状態での推計をしているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） ということは、最初に提案いただいたように、まだまだ精査の時期じゃないので、そのままの中でずっとやっていますよということで、財政見通しの中で、それは作りこんでますと。学校跡地については、まだ佐田小、黒川小学校のことを言っていたいただきましたが、それぐらいのところで大体考えていますというふうに考えていいんですか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 佐田小、黒川小学校は、現在の維持管理を申し上げただけで、杷木の4つの小学校を同じような経費で維持管理するということは全然考えておりませんので、計上してないということでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 財政見通しの中では、例えば、その例のプラスアルファのところのそれよりも高くなるかもしれないし、低くなるかもしれないけども、そういうのがまだ入ってませんよということですね。わかりました。

じゃ、お手元の財政見通しから作成した表を見ていただきたいと思ってます。朝倉市のこれからの事業政策はどうなっていくかということです。平成32年単年度収支は赤字になるということは申しました。今から4年と半年後、平成33年には、表で、ここで、「うち教育等投資」と書いておりますけれども、そうあらわしている朝倉市の投資的経費が大きく減少します。それでも赤字です。さらに、今から6年と半年後、平成35年には、さらに投資的経費は減少します。しかし、年度収支は赤字です。今、答弁いただいた大型事業、大きな政策をしても、財政は好転しない。

確認ですが、現状のまま先ほどの政策を行っても、財政見通しはよくなるらないということでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） この1月に出しました財政の見通しというのは、このまま単純に大型事業等をした場合の推計でございまして、このとおりにいったら赤字になりますが、これにならないように、今からいろんな効率のいい行政をしていく、行革等を行いながら、これにならないようなふうにしていくように示したものでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 財政見通しの厳しさというのは、維持補修費からも伺えると思います。道路、橋、公共施設などの社会的資本の改修、改築が必要と言われております。財政

見通しでは、維持補修費は平成26年度決算額と同じとして見通しをつくられております。しかし、実際に9月議会に提案されています27年度決算においては、その見通しを8.9ポイント、9%増加しています。これから行われていきます朝倉市公共施設等総合管理計画、この工程表はどうなっていくのでしょうか。進捗と財政との連携、それから、財政見通しについて質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 総務財政課長。

○総務財政課長（郷原康志君） 今、御質問のございました公共施設等総合管理計画と財政との連動と申しますか、その関係についての御質問だと思います。こちらの公共施設等総合管理計画、こちらのほうに、この中に更新にかかる経費の見込みという金額がございます。そちらの中での金額と、私どものつくっております財政の見通し、どういうふうに関連しているかということだろうと思っておりますけれども、こちらの公共施設等総合管理計画のほうのこの経費の見込みというのは、現在あります公共施設をそのまま存続するという前提で、機械的、一律的に試算をしたものでございます。今後、実際このように行っていくものではございませんけれども、市有財産をストック的に捉えることは必要だと考えております。

また、これによって市の施設をどう寿命を延ばすか、どの施設を更新していくのか、更新するならば、どの規模で更新をするのかなど、これからの時代に合ったものに変革していく必要を示唆しているものと考えておりますので、こちらのほうの経費にかかる見込み、それについては、財政の見通しのほうの中では入れてないところでございます。

見通しにつきましては、今後、大規模改修や建てかえ、そういったものを行います年度や規模、また、財源、そういったものが決まった段階で、財政見通しの中に入れていくと、組み込んでいくということを考えております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 今から入れ込んでいきますと、大変厳しいです。財政見通しにつきましては、まだ足し算の項目がありますよと。足し算というか、歳出の足し算の項目がありますよということだと思います。

さらに、医療福祉についても厳しいのではないかなと私は見ました。財政見通しの繰出金には、保険関係だけではなくて、下水道事業も含まれているということですが、27年度決算額は、財政見通しよりも繰出金がプラス1.6%、また、扶助費についてはプラス2.9%増加となっております。これから先、さらに高齢化社会を迎えるという厳しい現実もあります。これから先の財政政策、先ほどいろんなことを取り込んでいくということでありましたが、それがまさしく財政政策であろうと思っておりますが、財政政策についてどのように考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 財政政策と申しますか、財政の考え方でございますが、基本的

には、黒字経営を保つというのは第一の目標でございます。それが単年度ごとの黒字だけではなくて、やはり将来的、10年先を見据えた財政運営ができることが、一番の財政政策という言葉が適当かどうかわかりませんが、そういう形で私どもは運営しているところでございます。ですから、今年の黒字分は、来年度以降の赤字分に備えるために、いろんな形で基金に積み立てたりとかしまして、黒字だから事業をたくさんするとか、そういう考え方はやってない。また、お金がなくても今しなければならぬもの、将来のためには今我慢してでも、苦しくてやらなければならぬもの、そういうものはどうしても取り組むという、そういう考え方を持っているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 具体的な財政施策を考えてはいないのかなというふうに思っております。間違いなくこの表からわかるのは、1カ月間30万円弱の家計ですが、3,000円弱の赤字がずっと続きますよということであります。3,000円って大したことないと思うかもしれませんがけれども、黒字にならないと、この赤字は潰れない。今の貯金をずっと潰していきますよというのが、議会に対しての言葉です。が、しかし、議会は財政政策を初め、政策の立案、執行はできません。では、なぜ議会に赤字の財政見通しを公表したのか。思うに、事業に対する議員の口利きですか。口利きを減らすためにと思ったりもしました。

しかし、何はともあれ、財政の厳しさはあります。執行部しか政策は打てません。この公共施設等総合管理計画を機に、事業における優先順位をはっきりと持っていただいて、市民のために優先される事業、それを明確にしていきたい。そして、執行部の考えと議員の考えを、市民の安全安心、生活のためにという事業のために議論し合える、そういう本来の姿になってほしいと思うからです。

では、さらに、また新しい活性化事業がまいてますので、3番に移らしていただきます。

国道322号線のクランク解消と、博多駅直通列車についての取り組みが始められました。この政策が本格的に動き出したのは、いつからですか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 長いことこの問題については議論されてきた経過がある中で、最初には平成13年に、旧甘木市時代の都市計画マスタープランに国道322をショートカットするという記載がございます。それから、いろんな過程を踏みまして、今回、昨年、平成27年の10月9日に、福岡県のほうに要望活動を行っております。その成果によりまして、関係機関協力のもとに進んでいる現状でございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 申しわけない。ちょっとはつきりもう一度、聞き取れなかったので申しわけない。動き出したのは何月ですか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 本格的にということであれば、10月でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 本格的という本格がわからないんですが、去年の6月の段階では、どういう状況であったんですか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 先ほど言いましたように、平成13年から、この問題につきましては、課題としていろいろな取り組みを進めてきております。そういう関係機関との調整は、これまでも続けてきておりました。今、本格的にと申しましたのは、関係機関の方々の一定の協力、理解が進められると、そういうことにつきまして、要望活動の成果という形でお答えいたしましたところでございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 協力、理解ができたのが10月であれば、6月にはどんな活動をしてたのかというのを聞いています。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 6月時点でも関係機関との協議は行いながら、調整を行ってきました。10月にそういった形で要望するための事務作業を行っております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 10月にまとまったということであれば、6月にはある程度のラインが見えてきているのかなというのを推察されるわけですが、間違いではありませんでしょうか。

なければ、次の中で、（2）に移らしていただきますが、博多駅直通列車については、この9月議会での補正予算に上がっていました。私は全く知りませんでした。ともあれ、国道322号線のクランク解消と博多駅直通列車政策と、非常に大きな政策だと思っております。午前中の一般質問の中での答弁もありましたけれども、市街地活性化事業との相乗効果をどう考えていますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 駅周辺整備事業というような形のもので将来可能となれば、駅周辺へ中心市街地事業により、居住の誘導だとか、そういったことも考えられると思います。朝倉市の拠点ということで、直通列車とか、福岡方面の通学、通勤による駅の利便性が高まるというようなところにつきましても、中心市街地の居住の人口については、相乗効果として期待されるものと考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 中心市街地活性化のときに、たしかこんなことも言われてました。建物を建てるときの制限があると。それで、それが外れれば、高層住宅というか、アパー

トとかですね。階層の高いそういう居住空間も生まれるんじゃないかということで、中心市街地の活性化事業を計画したことを祈念してしまして、質問をしたところでありました。

(3)に移してもらって、庁舎建設との相乗効果はどう考えていますでしょうか。それからまた、財政的な予算というのを、この直通電車と、それから、駅前開発事業といいたいでしょうか。それについてどれぐらいのことを思ってるのかを、あわせてお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 庁舎でございますけれども、駅舎より徒歩圏内の立地となります。駅舎を中心とした周辺の整備が進むということで、今後、一体化をもった活性化が期待できるものと考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 事業の財政的なものでございますけど、まず、直通電車と322号線のクランクの解消とは、まず全く別の事業でございます。そして、直通電車につきましては、まだすると決まったわけではなくて、調査をしていくと。調査の中でどれぐらい費用がかかるとか、物理的に可能なのか不可能なのか、それが出ない限り、朝倉市としてどうするかという判断はできておりません。基本的には、甘木鉄道が行うものでございますので、将来に持続できるような直通電車を想定しなければなりませんので、最初の初期経費と、あと、維持管理ですが、これがどれぐらいなるかで、本当にそれができかどうかちゅう判断した上での結果となりますので、現時点では、まだそちらのほうは出てないということでございます。

それと、まちづくりのほうですか。322のほうのクランク解消につきましては、これは、どれぐらいの事業をするかも今調査中でございます。今からそのあたりは計画していきまして、朝倉市の財政等見ながら、まちづくりの広さとかは、今後決めていくことになるかと思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 今、別々の事業と申されましたけれども、直通の列車が博多駅まで走ること、朝倉にとってすごくいいことだと思います。そうしたときに、駅前がどうなっていくのか。それによって、大きく町のイメージが変わってくるのかなと思っております。

そういったときに、私が危惧するのは、先ほど言ったように、月々3,000円ぐらいのという言葉はちょっと失礼かもしれませんが、それぐらいの赤字が見込まれる。一般家計に直すとですね。と言いながらも、黒字になるという政策がどこにも見えてないことで、このことが、この朝倉市の目の前にある、大きくイメージを変えようという事業の足を引っ張るんじゃないかなと危惧しております。

私自身もう一度振り返ってみますと、今年の6月、この議会において一般質問しました。庁舎と駅前開発の件でございますけれども、東京都の豊島区の例をとって話しました。そ

のときの総合政策課長の答弁は、「庁舎とマンションなど民間施設を複合的な施設にするかどうかにつきましては、今後進めていきます基本計画策定の中で協議していくことになります。現段階で具体的な案はございません。そういう状況でございます」とあります。また、当時の総務部長は、「議員が言われます豊島区の庁舎とマンションを一緒にするような事例でございますが、大変いい事例だと思っております。豊島区は、調べてみますと、面積が13平方キロメートルでございます。そこに人口が30万人おります」。中略をしまして、「この朝倉市においては、そういう場所よりも、マンションをするよりも、土地が非常にありますから、それがそのまま持ってくるのはいかがかなという、ちょっと疑問は持っておりますが、今後の検討の中には一つ入れていかなければならないと思っております」と答弁されております。この件については、議会が議会報告会を去年、秋にしてまいりましたが、その中で市民の方からも、豊島区のような庁舎をつくったらどうかということがありました。検討することであったということですので、検討はどこの会議で、いつ行われて、そしてまた、乗り越えられない課題があったかと思っております。それは何だったのかをお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 庁舎とマンションと一緒にするという事は、基幹的な問題ですとか、それをやる民間の業者をどうやって募集するのか、また、市のほうが直接それをするためには、工期の問題とかいろいろございまして、そこは、現在では実施はしていません。マンションとかそういう民間投資を必要とするものは、先ほどの322号線のクランク解消のまちづくりとかそういう、朝倉市としては、基本ベースといいますか、に条件を整備することによりまして、民間投資がそういう形で入ってくることを期待して考えていこうというふうに思っているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市長の施政方針です。博多駅までの直通列車を通すと。これ非常に素晴らしいことだと思っております。だからこそ、たくさんの課題もあると思っておりますけれども、甘木から座って通勤して45分ぐらいで博多駅まで着きます。これってすごいことだと思っております。これは朝倉市がPRするのではなくて、ほかの企業がPRしてくれる。ほかにも一般質問の中でありましたけれども、公共事業、西鉄電車、それから、西鉄バス、高速バス等、朝倉市は公共交通がいっぱいあります。それをどう生かすかというのが、これからの朝倉市の一つの大きなかなめになるんじゃないかなと思います。ですから、民間を使う使わない、市役所についてもですね。庁舎についても民間を使う使わないではなくて、豊島区が都会でやってるんだとしたら、田舎のこの地方都市でもできるんだよということをするので、大きなPRができるんじゃないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 答弁の前に、訂正をちょっとしたいと思います。45分では着きま

せんので。乗りかえて博多駅までは。（発言する者あり）いえ、直通でも、まだそれは時間はわかってませんので、そういう時間的なものは、私ども出した覚えはございませんからね。あなたが勝手に出してるんならいいけど、それがこの議場の席で出ますと、そういうふうになるげなという話になりますので、この点については、私どもとしてははっきり否定をさせていただきますということでもあります。

それと、豊島区の例をよく出されます。しかし、冷静に考えていただきたい。先ほど言った十何平方キロの中に30万人の人が住む地域と、246.7平方キロの中に5万四、五千人の人間が住む地域が、同じ土俵と、同じ形でできるのかということ。それは、やるだけはやっても構いませんよ。金がありやできることだから。しかし、その後のことを考えた場合、果たしてできるのかということです。そして、まず民間業者。行政で全部やるということは考えてませんので、もしマンション、そういう民間。ただ、民間がそれに乗ってくれるかどうかという話です。そこら辺も含めて冷静に考えなきゃならんし、富田議員がいろんなロマンを持って言われるのは結構なことではありますが、私どもはロマンだけじゃいかん。もちろんロマンを持ちながら、それに近づける努力をしなければいかんのですけれども、現在の私どもの考え方の中には、そういったことについて取り組もうという考え方はございませんということを、はっきりと申し上げておきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） ご覧はいいんですが、でも、提案する権利は議員にはありますので、ぜひ聞いていただきたいと思います。

問題は何なのかと。いい案があるんです。いいものが朝倉市にはあるんです。財政がない。なら、知恵ば出さないかんというのを、この場で私はしてます。違う話があるかもしれない。直通列車についても、本当に青年会議所のころから、私も甘鉄の存続運動にかかわってまいりました。もっと言えば、二十何年前、アメリカンフェアをやったときに、最後なのでSLを通そうじゃないかという運動を門鉄まで言ったこともあります。同じように、あのときも廃止になる線路だから、レールが、SLの重さに耐えまないと。まず、列車が重いと。SLが重い、機関車が重いんです。それと、水と石炭を積まないかんので、たくさん、それが廃線を間近にしたところでできていないのは、もう物理的に無理ですよということを言われました。

今、朝倉市がやろうとしてるのは、レールバスという軽い列車が走る上に、蓄電車という重い列車を走らせないかん。昔、レールバスをJRの線路に走らせようという話をしたときに、JRからは、まず、スピードが出まないと。そして、改良なので、事故があったときが非常にだめなので、まず無理ですという話が出ました。新しく蓄電車というのが出たので、それはすばらしいことだと思っています。でも、それをすることについて、線路の耐久性、午前中、出ましたけども、耐久性、それから、踏切等、ポイント等、いろんなものをやっていかないかんことがあると思います。これは大変な事業ですが、朝倉市のた

めには、挑戦する価値はあると思っています。市役所をマンションの中に入れ込むというのも、東京ができて、この朝倉ができた。できんこっちゃないと思います。実際にマンションは、この朝倉市の中にあります。甘木の中にもありますし、賃貸マンションを含めて杷木にもあります。なら、可能性があるんじゃないかなというのを、ぜひせないかんと思います。なぜか。財政が黒字にならないからです。財政が黒字になる案を、ぜひ優秀な職員の皆さん、そして、議場で市民の皆さんとともに考えていくべきではないかなと思っています。

ところで、昨年6月に、この議会で庁舎のお話をさせていただきました。そのときに、市役所のほうからは、その322のクランクの解消の話が動いてるということの情報提供がありませんでした。が、しかし、答弁の中には、庁舎建設はまちづくりの起点ですよという話があります。なぜこれがなかったのかというのを思ってるんですが、そこあたりのところは、全く別の事業だからという話で終わるのでしょうか。いかがですか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） はっきり申し上げまして、6月に公表できる環境ではなかったと言えます。10月になった後に、議員の皆様にもそういったお話をさせていただいたように、その時点で公表できるものではなかったということをお伝えしたいと思います。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 議会には一事不再議の原則というのがあります。一遍決まったものは、もうそれで終わりですという話がありますが、逆に例外もあります。議案の背景となる事情の変化によって、前提条件が異なっていると介される場合には再審議ができるという、事情変更の原則というのがあるかと思います。今、庁舎建設、それから、体育館問題と、朝倉市において大きな事業が変わってまいりました。が、しかし、財政についてはまだまだ赤字だという、この現状があります。まちづくりの環境の変化、それから、財政赤字問題という、この2つのことによって、先ほどの事業案件の背景が大きく変わったと私は思います。今一度立ち止まって、今、直面しているそれぞれの事業、政策の相乗効果をつなぎ合わせたらいかがでしょうか。東京都は、でき上がっている施設に対しても立ち止まりました。私は、市長の言われる日本一のふるさと朝倉を見たいものです。それは、自分が思うだけではなくて、誰もが思う日本一のふるさとです。夢のかけ橋、甘木線。市長しかできません。立ち止まって政策の再構築をして、日本一のふるさとを目指す。市長、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 市長がお答えになる前に、財政が赤字になるから、体育館とか庁舎とか見直しをすべきだということについて一言申し上げたいと思うんですけど、財政の見通しは、こうしたらこうなります試算でございまして、10年後に赤字になりますでは

ございません。あれは前提がありまして、いろんな基金を赤字補てんといいますか、そういうことを使わない前提にしております。ですので、大きな事業をするためには、場合によっては、財政調整基金を使う場合もありますし、特に朝倉市の場合は、こういう将来的に公債費がふえていきますので、将来的の起債の償還の公債費に充てるために、減債基金というのを十分積み立てております。そういうものを充ててない、基金から繰り入れてないちゅう前提の試算でございますから、見た目は赤字というふうになっただけでございます。運営上は黒字になる予定でございます。そこだけは申し上げたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、副市長が答弁しましたように、富田議員の前提が試算を前提にされております。それは、私どもとしても、今、副市長が言いましたように、このまま行ったら10年後こうなるなど。しかし、そうならんように努力するための一つの数字でもあるという事実です。それを前提に、全てのことが将来必ずそげんなるということではございませんのでね。もしかすると、それより悪くなる可能性だってあります、逆に言う。しかし、よくなる可能性だってあるわけです。ですから、そういう形の中で、私どもの戒めとして、これ以上悪くならんように努力せないかんという一つの指数でもあるということをお理解いただきたい。その上で、今回のもろもろの大型事業については計画をさしていただいております。ですから、このままやらしていただきたいというふうに思っています。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 私の思ってる、心配してるのがわかっていただけなかったのかなと思ってます。私もちょっと体を壊しまして、走ることができなくなりました。当たり前が当たり前ではなくなると。財政、単年度収支が赤字になるということをどうなっていくかと。これは、大きく変わってくるということを言っています。先ほども申しました、その「うち教育等投資」と書いてありますこの投資額が大幅に減ってくるというのは、この朝倉市の危惧するところ。まちおこしをやろうと、経済政策をやろうと思っても、資金がないとできません。住みよい町をつくろうと、福祉政策をやろうと思っても、資金がないとできない、そういうことがある。これを見るだけではわからないかもしれませんが、間違いなく、しかし、赤字が続いていく。これだけ削っても赤字になっているという現状があります。もう一度知恵を出し合って、本当のすばらしい朝倉市を築いていきたいと思えます。これは、本当に市長の裁断でしかできません。議員としては何もできませんが、これは、多くの市民の思いでもあろうかと思っています。赤字になるまちではなくて、本当に元気のいい朝倉市を、知恵を出し合うことによって何かしらできるのではないかと。これは私の一つの提案でありまして、まだまだ職員の皆さんの英知を集えばいっぱい出てくると思えます。それを期待しまして、一般質問を終わります。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後 3 時 7 分休憩